

山形県河北町立谷地南部小学校

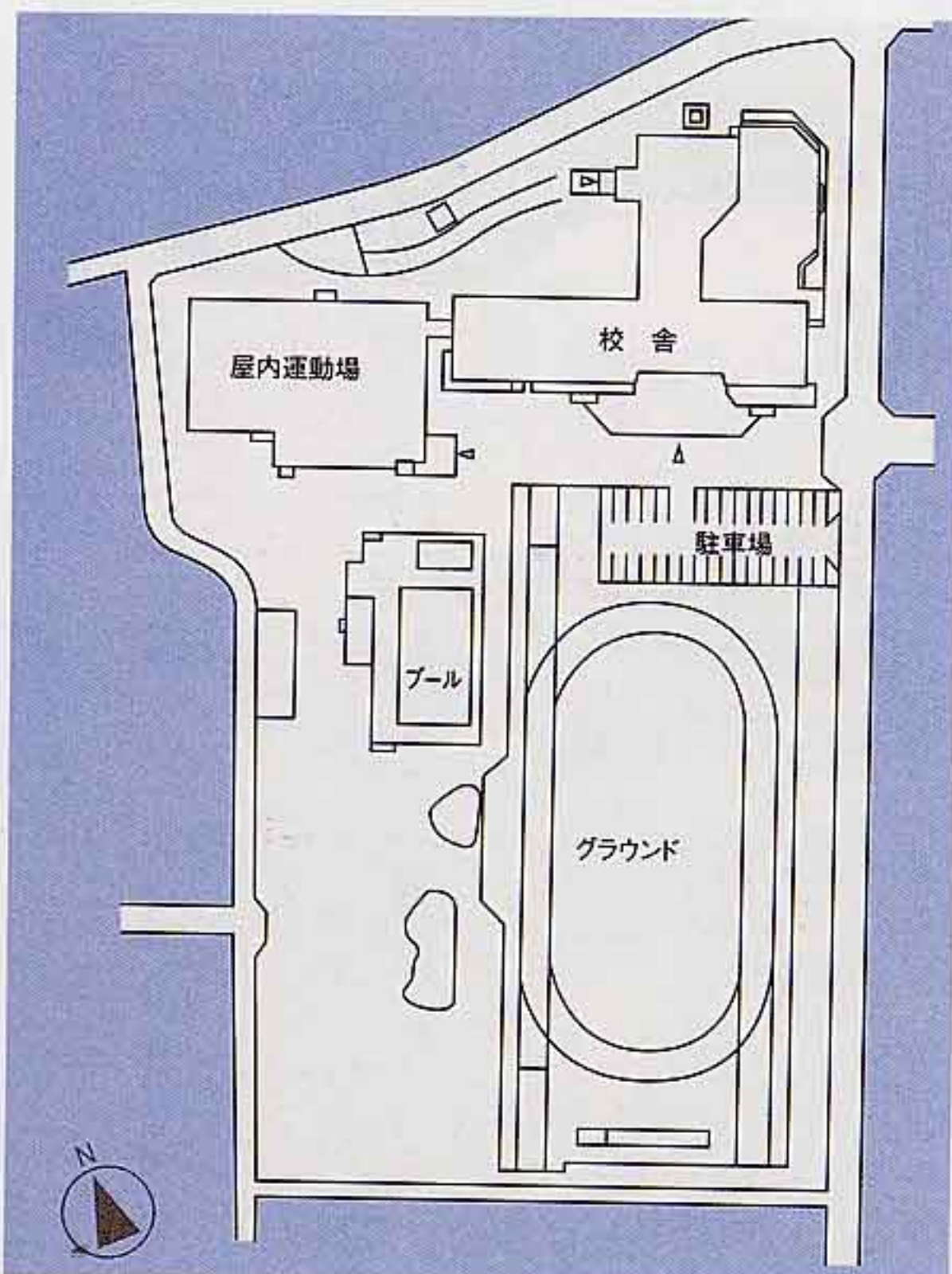
学校所在地	山形県河北町谷地字荒町東1-7-1		積雪寒冷地	2級	
学級数	12+1学級	児童生徒数	311人	教職員数	20人
事業概要	改築		事業年度	平成8・9年度	
施設概要	施設名	構造	階数	保有面積	整備した事業タイプ
	校舎	R	3	4,339m ²	その他省エネルギー・省資源型
	屋内運動場	R	2	1,300m ²	
	寄宿舎				
	その他				

1. 設計コンセプト



「学校は未来に生きる学びの殿堂」を基本コンセプトに、以下のような配慮を行い設計した。

- 子供の安全に配慮
落雪の心配のない屋根、角のない柱、子供と車の動線分離、校舎・体育館の同時完成（工事中の事故防止）
- 子供の学習に配慮
1・2年生をそれぞれ独立した学年のワークに、ゆとりある教室と多目的スペース、多機能に使える食堂、特別教室の配置（将来の学校形態を先取り）
- 子供の体に配慮
体にやさしいフローリング、採光、防寒（ペアガラス）、ゆとりある空間
- 子供の心に配慮
心のふれあい空間（南部っ子広場）、見える職員室、児童相談室、既存樹木の保存
- 地域に配慮
体育館（地域公開）利用者が使えるミーティングルーム、地域のシンボル「舟繋の松」をデザインした食堂



2. 事業のあらまし

【地域の特性】

- 山形県のほぼ中央に位置し、扇状地が形成する平野にあり、山々に囲まれた田園地帯。
- 典型的な内陸型気候で、寒暖の差が激しく、日本の過去最高気温を記録する一方、冬の積雪も多い。

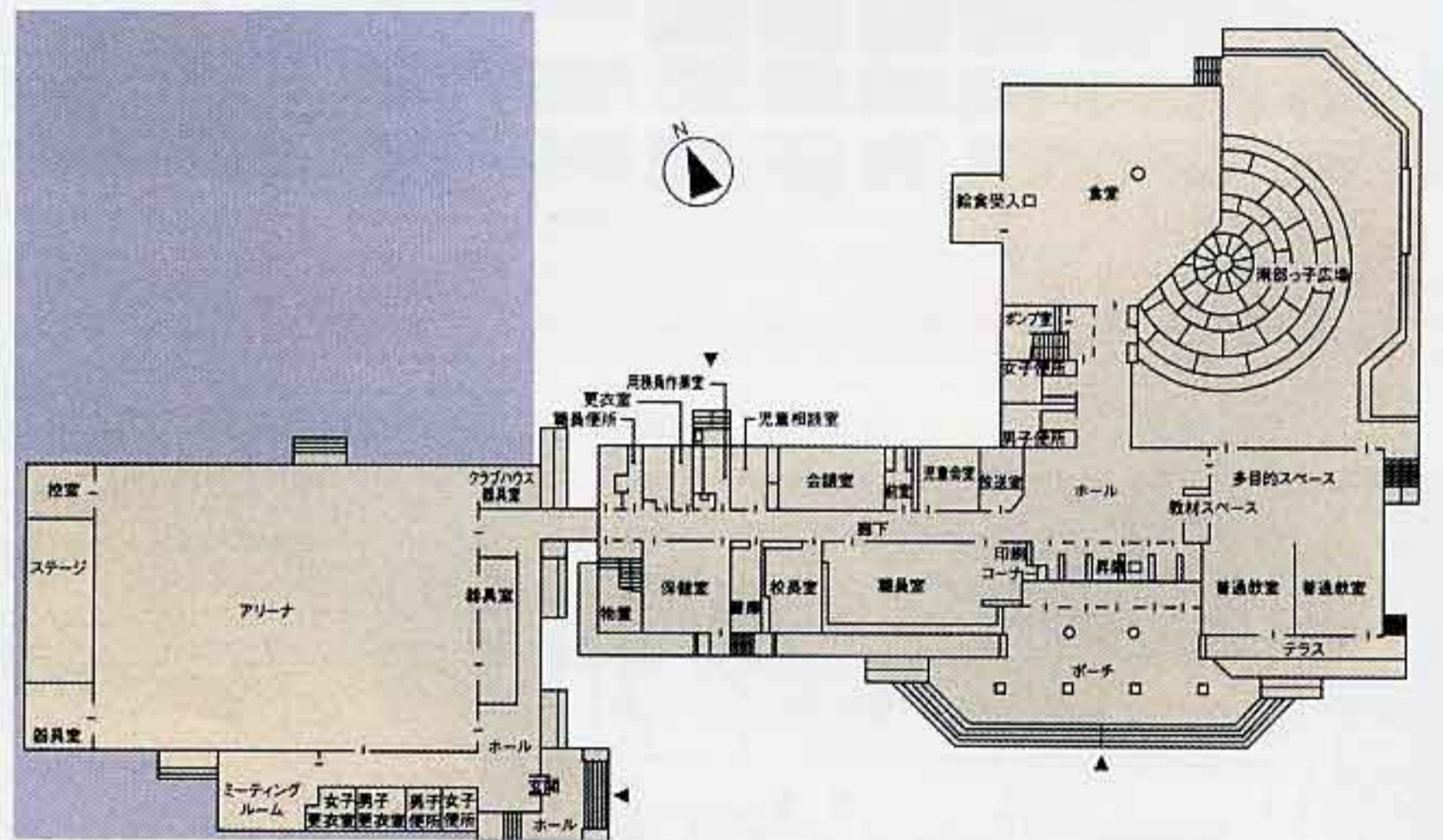
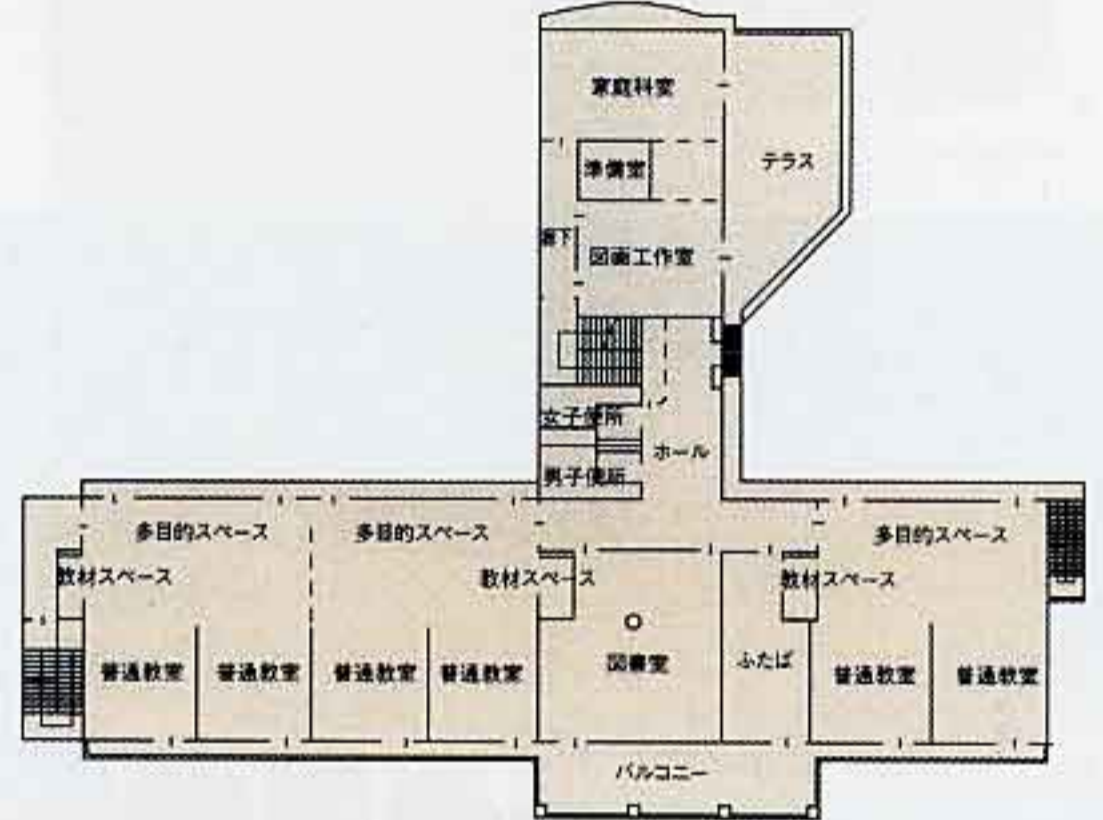
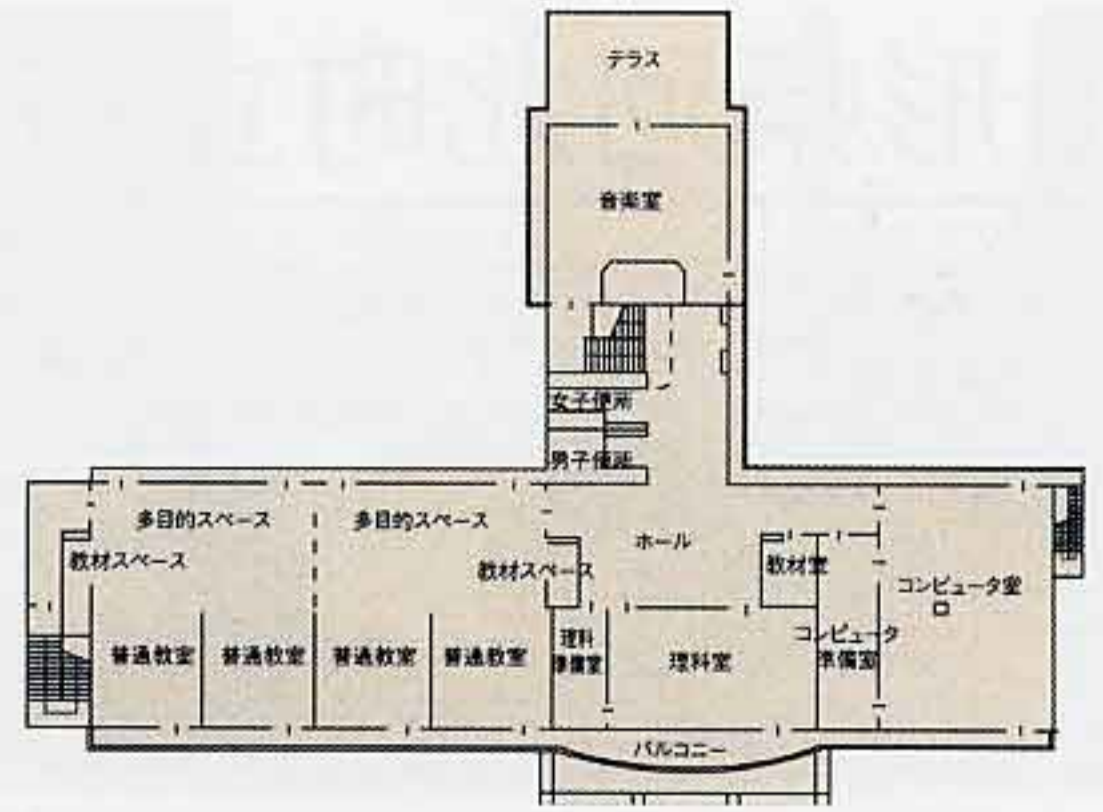
【各段階で配慮した事項】

<プロジェクト運営>

準備・計画段階：S63年 地区組織「校舎新築促進期成会」結成。

<エコスクールとしての配慮>

設計段階：できる限り断熱を強化し、暖房エネルギーの削減が図れるよう、計画した。



【計画を進めるにあたっての体制】

	準備・計画段階	設計段階	施工段階	備考
教職員	◎	○		使い勝手など設計への要望
児童生徒				
PTA	○			
地域住民	○			校舎新築促進期成会
教育委員会	◎	◎		
行政	◎	◎	◎	発注者として各種対策の採否検討と手続き等
設計者		◎	◎	

◎：中心になって取り組む ○：補助的に関わる

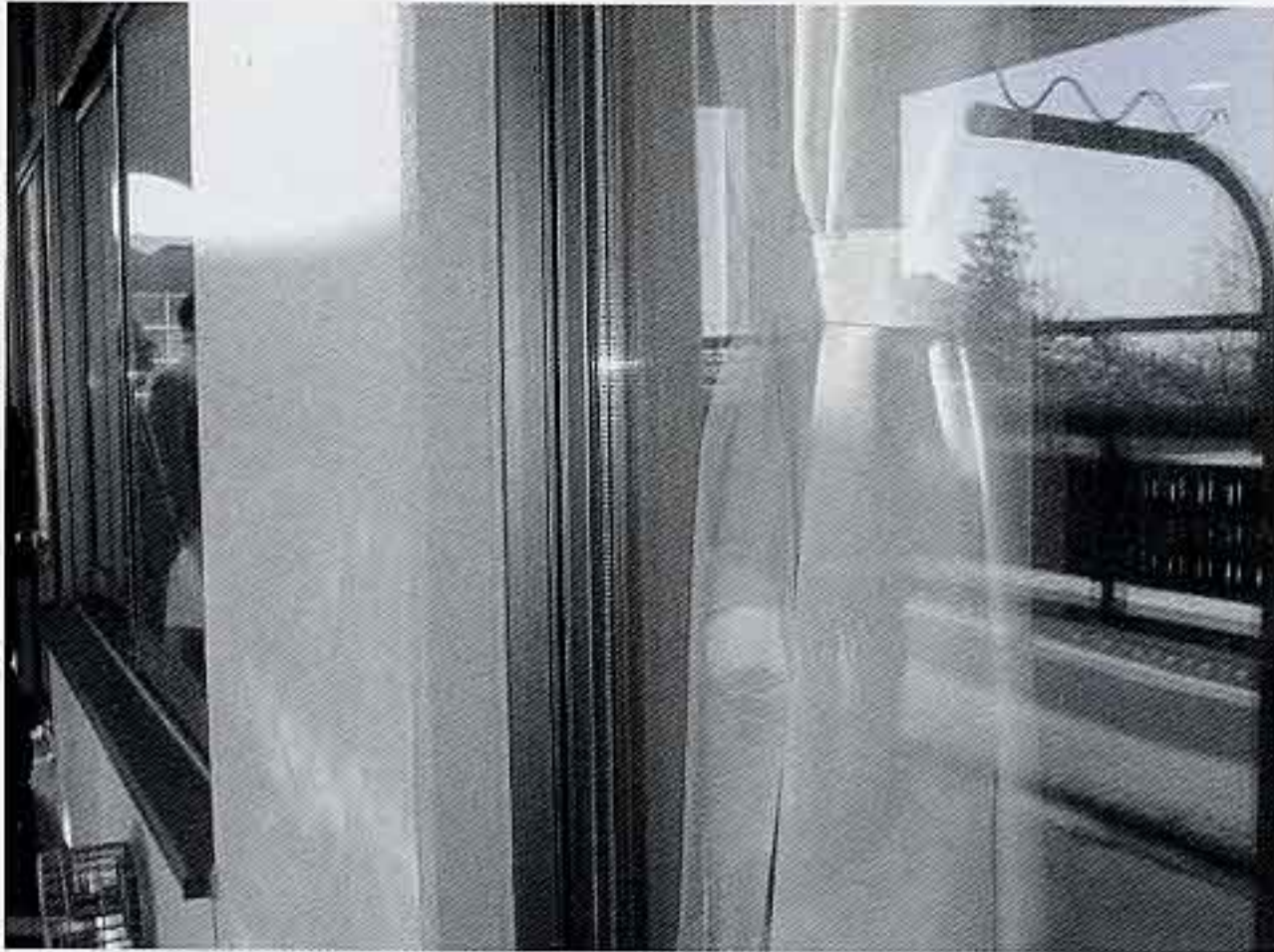
【事業費】

(千円)

総事業費			1,917,166
建築			1,661,954
用地取得	関連工事含む		239,316
その他	備品購入・安全対策費など		15,896

3. 環境負荷低減手法

(1) やさしく造る



【複層ガラスと屋根の断熱】

- 複層ガラスを採用し、教室内の暑さ、寒さを和らげる。特に、窓際席の環境を改善してバランスのとれた教室内の環境実現に役立てる。
- 断熱性能の向上によって、冷暖房用のエネルギー消費を削減する。

※複層ガラス：通常2枚のガラスの間にアルミ製スペーサー（吸湿剤が入っている）を挟んでガラス間隔を保ち、周囲を封着材で密封し、内部の空気を乾燥状態に保ったガラス（ペアガラスともいう）。空気層がある為、単板のガラスに比べ断熱効果、遮音、防音効果が高い。



【旧校舎のシンボルを受け継ぐ】

- 地域の人々の要望により、学校のシンボルであった既存の松を伐採しないよう、配置計画に配慮した。

【木材の活用】

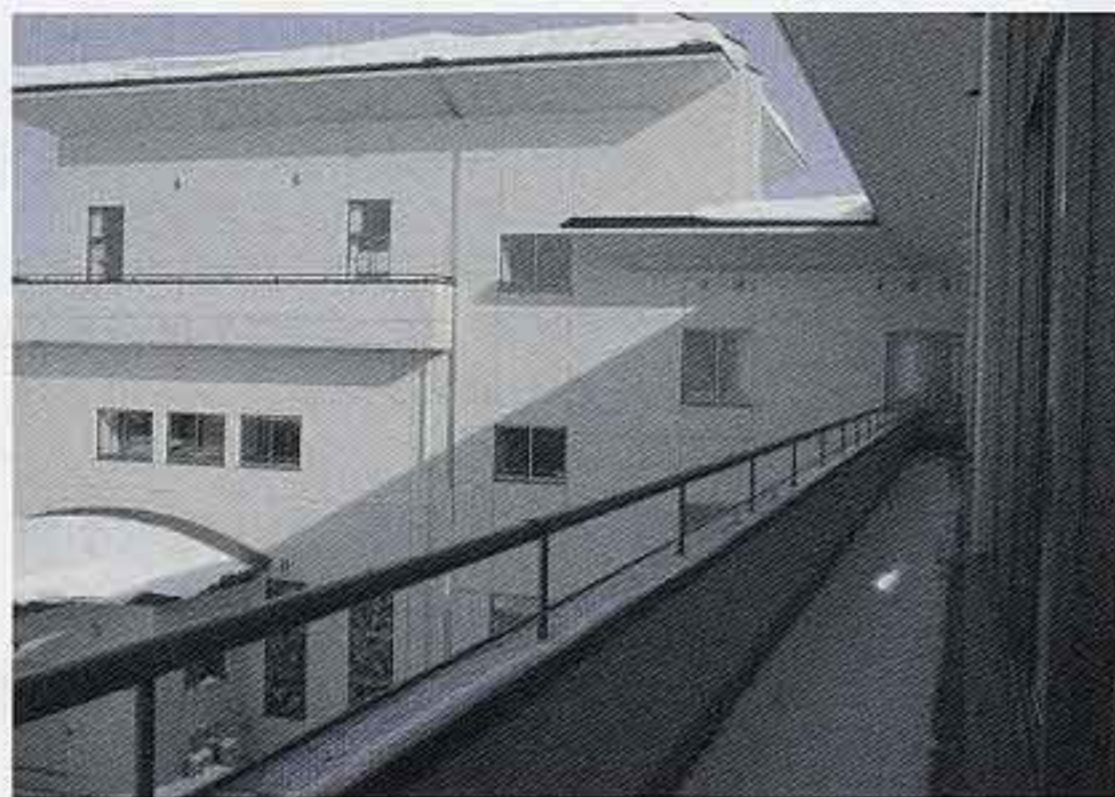
- 建具、フローリングのほか、階段や柱などの内壁仕上げやベンチなど木材を校舎内に全面的に用いている。



(2) 賢く・永く使う

【両面バルコニー】

- 普通教室エリアは、南側バルコニーに加え、北側（多目的スペース側）にもバルコニーを設けて、児童の落下防止と同時に、清掃や修繕など維持管理の容易な計画とした。
- 夏期においては南向きのバルコニーは日除けの効果を意図する一方、北側のバルコニーは窓の開口を大きくとることを可能とするので、より多くの通風が期待できる。



【可動間仕切り】

- 特別教室での可動間仕切りによる、機能変更への対応と準備スペースの確保。



【自然採光】

- 複層ガラスを採用することで、窓面を大きく取り、自然光を積極的に室内に採り入れ、バランスのよい光環境形成と省エネルギーに役立っている。

【省エネルギー型蛍光灯】

- 省エネルギータイプの蛍光灯を積極的に採用している。



(3) 学習に資する



【施設の活用状況】

既存緑地・学校園；理科では、葉と日光の関係について校地内樹木を活用。

生活科、総合学習において、畑を活用してさつまいもなどを栽培。

芝の上で、屋外給食を実施。校地内に「虫塚」を配置し、命の尊さ、緑や自然の大切さを指導。

【地域開放】

- 体育館や特別教室は、地域に開放できるよう管理がしやすい平面計画としている。

4. 施設の運用

【維持と管理】

	体制	役割
教職員	◎	
児童生徒	○	日頃の清掃など
P T A	○	
地域住民	○	
教育委員会		
行政	◎	
設計者		

◎：中心になって取り組む ○：補助的に関わる

【設置者の声】

- 複層ガラスやバルコニーの整備は学校から評価も高く、良い結果となっている。

【学校の声】

- 四季の厳しい山形県にあって、複層ガラスの設定等により、冬は暖かく、また、日除け用バルコニーや北側のバルコニー配置は、暑い夏に是非必要。平坦な屋根は雪国においては排雪がでなくなり助かっている。
- 校内が快適でカゼひきなども少なく、欠席する児童も減ってきた。児童は明るく、広びろした教室でとても楽しく勉強ができるようだ。友情の森は日陰となり涼しく、冬はスキーができて楽しんでいる。
- 緑地は、学習教材だけでなく、樹木や草花のみどりによる「いやし」効果を期待している。また、日陰や防風林としての効果もある。

【現地を訪れた委員の感想】

- 地元の期待の中で建設された学校で、校舎内は木のぬくもりに満ちており、校地にも、地域の歴史に繋がる樹木が豊かである。雪解け水が豊富で、酒造りの地でもあるので、緑や水をテーマとする環境教育などに取り組みやすい状況にあるとも思われる。さらに最近では、「遊雪・利雪」など雪との積極的な関わりも地域で動き始めていて、新しい環境教育への視点も期待できる。
- 屋根は無落雪タイプの屋上で、軒先を長く出し、バルコニーは屋上軒先より下げるプランとしている。さらに、昇降口のピロティは広く天井があって、積雪時の児童の出入りの安全確保が図られている。体育館は地域開放を意識して、配置のほか開放用の和室を備えるなどの工夫がされていた。断熱性についての配慮が望まれる。